

トピックス

「遊び場マップ」をつくろう!!

11月15日、プロジェクトルームに京田辺市 石井明三市長をお迎えしました。

メンバーから現在の活動状況について説明し、京田辺市の子どもたちをとりまく環境や、来年度の配布を目指して作成中の京田辺市遊び場マップについて、市長を囲んで意見交換をさせていただきました。



2012年度 同志社ローム記念館プロジェクト最終成果報告会

日時：2013年3月9日(土) 12:00～
場所：同志社ローム記念館 劇場空間

今年度活動する各プロジェクトが、1年間の活動と成果について報告し合います。

2013年度 プロジェクトメンバー募集!

次期プロジェクトは3月上旬決定、発表の予定です。Webサイトや広報誌、ポスター等でお知らせしますので、お見逃しなく!



編集後記

あなたの「やる気」の根っこはどこにあるだろうか？
こてんぱんにダメ出しされた時の悔しい思い？ お母さんのコワイ顔？
何に対するやる気か？ということによるのだけれど、たいていの人は、自分の趣味や好きなことにはやる気が起こりやすいし、不得意なことでも、「キミを見込んで頼むよ!」「キミならできると思うよ!」と言われればやる気になるものではないだろうか。好きな子から、「さすがだね!」と言われようものなら、俄然がんばってしまう、という人もいると思う。

今回実施した短期プロジェクトでは、こうした人から認められること＝「承認」や、そこから一歩進めて、誰かが誰かの功績を明らかにして褒め称えること＝「表彰」をテーマとして展開された。大学生が認めて欲しいのはどんなこと？どんな基準で表彰されたらうれしいか？といった意識調査とその結果分析を行い、承認、表彰の効果効能に迫ろうというものだ。19日間という短期間でのチーム活動、メンバーは自分の持ち得る知識、スキル、時間、アイデアを総動員して取り組んだ。少人数ながら、なんとか貢献しようと積極的に取り組むメンバーの姿が印象的だった。

今号のテーマは「理想のプロジェクト」だが、プロジェクトに参加する「理想の自分」とは、どんな感じだろうかと考えてみる。いつも元気いっぱいニコニコして気が利いて、メンバーの相談にも適切に答えられて、頼りにしてもらえて、アイデアがどんどん出てきて、企画書づくりも伝票処理もポスターデザインも、編集後記だってすらすら書ける!...どれも、まわりから認められる自分のイメージにつながるのだが、数え上げればキリがない。でも、みなさん、一度数え上げてみてはいかがだろうか。言葉にしてみたら、見えてくるものもあるかもしれない。

(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 西村ひろみ)

プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實
理事長 八田 英二

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみなさまからご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。

同志社ローム記念館
プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]



理想のプロジェクト

座談会「ぼくらの理想のプロジェクト」
2012年度 ステップアップキャンプ・中間報告会
同志社京田辺祭2012 REPORT

プロジェクト活動レポート
イベント報告

DIR Information

特集

理想のプロジェクト

同志社ローム記念館プロジェクトでは、IT、メディアテクノロジーの活用や、デジタルコンテンツの作成をテーマとして取り扱う。特にこうした分野では、新しい技術やサービスも次々登場しているため、毎年エントリーされるプロジェクトのテーマも、常に変化してきている。また、毎年新しいメンバー構成になるため、そこに生じるプロジェクト運営上の課題も少しずつ変化する。

これまで、新しいツールを用意したり、メンバー向けのプログラムをアップデートするなどして、毎年さまざまな工夫をしながら年を重ねてきた。

第10期を迎えようとする今、プロジェクトを取り巻くさまざまな環境変化を見据えて、「今」の理想を考えてみたい。この時代の「理想のプロジェクト」とはどのようなものなのだろうか。

座談会

ぼくらの「理想のプロジェクト」

11月某日、2階オープンスペースに男達が集まった。

この座談会は、「ローム記念館に関わる委員の先生たちと、一度じっくりプロジェクト運営について話したい!」というプロジェクトメンバーの提案で実現したものだ。若手の委員とコアプロジェクトメンバーという組み合わせは、はからずも男ばかりの座談会となった。

プロジェクトメンバー

小羽田 諭孝 大学・生命医科学部医工学科2年
●「病院検索おたすけツール開発プロジェクト」(誘致プロジェクト)
●「SCoPコア」(コアプロジェクト)

今入 康友 大学・理工学部情報システムデザイン学科4年
●「病院検索おたすけツール開発プロジェクト」(誘致プロジェクト)
●「SCoPコア」(コアプロジェクト)

矢倉 和雄 大学・文化情報学部文化情報学科4年
●「クリエイターバンク」(コアプロジェクト)
●「SCoPコア」(コアプロジェクト)

飯野 慎吾 大学・理工学部情報システムデザイン学科1年
●「舞台計画」(コアプロジェクト)

同志社ローム記念館プロジェクト
WG委員会 委員

小坂 隆浩
大学・理工学部情報システムデザイン学科

波多野 賢治
大学・文化情報学部文化情報学科

土屋 誠司
大学・理工学部インテリジェント情報工学科

なぜローム記念館プロジェクトなのか？

小坂) 委員の立場から、参加したメンバーが効果的に学びを得られるためにどうなればいいのか、という視点でプロジェクトポリシーを策定しているけれど、メンバーから見て、ローム記念館プロジェクトの魅力って何だろう。みんなはなぜローム記念館プロジェクトを選んだの？

小羽田) 学科の先輩から勧めてもらったのがきっかけです。実際にいくつかのプロジェクトの話聞いて参加してみて、自分が「ここが合うな」と思ったので今のプロジェクトに参加することにしました。



今入) プログラミングセミナーで知り合った先輩に誘われて「学生がつくるWebサービス(2010年度)」に参加しました。チーム内の雰囲気もよくてすぐに溶け込むことができました。毎年、誰かに誘われて入る、という感じなのですが、自分のスキルや得意なことを活かせる場所、ちゃんと自分の居場所があるという実感が持てます。



飯野) 僕は、友達や学科の説明会で広報誌「ippo」をもらって、一緒に見に行こうと誘われたのがきっかけです。イベントの運営を手伝ったりした経験はあったので、企画の段階から実践できるという点で「舞台計画」を選びました。

矢倉) ローム記念館の前に貼ってあった短期プロジェクトのポスターを見て、そのプロジェクトに参加するのが最初です。授業で学んだことを実践する場がほしかったと思っていたところで、プログラミングがしたくて参加しました。



でも、実際には技術面ではなかなか追いつかなくて、結果としてプロジェクトをうまく回していく役回りに。そこでチームのマネジメントに興味が出てきたこともあって、昨年度は途中からプロジェクトリーダーもやらせていただきました。

小坂) みんな「これがしたい!」というよりは、チームの雰囲気にも魅かれたりすることが多いみたいだね。僕は高校生ぐらいで将来のイメージを持っていて、すべてそれを基準に選択していたように思うけど。

波多野) 僕もそうです。僕の場合のベースは社会貢献にありますね。将来のことを考え始めた高校生の頃から、基本的には人助けにつながるかどうかを考えていました。データベースを専門に選んだのも、コンピュータサイエンスを考えたときに、どんなアプリケーションも基盤がしっかりしていなければいけないと考えたから。しっかりしたデータベースがあれば、その上に乗るアプリケーションが生きてくると思ったんです。今のプロジェクトを見ていると、プロジェクトと、協力企業や関連団体との間でしっかりとした「Win-Win」の関係がつけられているように思います。社会にどうインパクトを与えることができるかを考えていかなければいけない。

成果優先か？プロセス優先か？

小羽田) プロジェクトに参加するときに社会貢献まで考えている人は少ないでしょうね。プロジェクト活動に取り組む中で、今まで自分ではできなかったことができるようになったり、苦しい時期を乗り越えるという経験をしたりして、自分自身が納得できる形で終わることができれば、成果が100%でなくてもいいと僕は思います。

小坂) 成果よりもプロセスということだね。

土屋) 僕は、ローム記念館プロジェクトのことを聞いたとき、まず、おもしろそうだなと思いました。プロジェクトの成果で

特許を取ることができたり、世の中に認められるようなものがどんどん生み出せるのならいいと思ったからです。

でも、波多野先生もおっしゃいましたが、今のプロジェクトは和気あいあいとしていて、「自分たちの目標さえ達成できたらいい」というような印象も受けますね。

どのプロジェクトもお金をもらって活動しているのですから、成果物として世の中に貢献できるようなものをめざしてほしい。1年間という期間で区切られるとは言っても、5年先、10年先のビジョンがある中で今年1年の目標を設定するような、



壮大な夢のあるものだと思います。こうして拠点があるので、歴史を積み重ねていけるようなプロジェクトがあれば発展していくことができます。長期のプロジェクトも走っていて、大きな目標が達成できたら発展的に解散できる、**やりきったという証**ができて、また次の新しいチームがスタートを切っていくという感じです。



小坂) このあたりは私たち委員と学生に考え方のギャップがあるところなのかもしれませんね。成果優先かプロセス優先か、ということでしょうか。もちろんどちらも大切ですが、**プロジェクトにはゴールがあり、そこに貢献できたかどうか**、そして



プロジェクトは「ヒト」で動く



波多野) プロジェクトに入ってくるときに社会貢献を考えている人が少ないということだったけれど、どのタイミングで社会に貢献していくべきだと伝えればいいのかのらう。



その結果生まれた成果がどのように社会貢献したか、そこまで考えて欲しい。

小羽田) 確かに、他の学生団体を見ていると、もっと社会の目を気にしているのではないかと感じます。ただ「やりました」というのではお金ももらえないし、お金がなければやりたいこともできない。社会的に認められなければ続けていけないですから。

ここのプロジェクトは恵まれていて、やりたいことができるし、予算も降りてくるし、そのための場所もある。悪く言えば、終わろうと思ったらやりたいことだけやって終われる環境です。もっと社会の目を気にしないといけない。**社会貢献の視点**を伝えていかなければいけませんね。

小羽田) 何かしたい、という学生は多いんです。ただ、何かしたいかわからない。そんな学生を集めるということからはじめれば良いと思います。何かやろうとすると、その先に社会に貢献できるものでなければ成功といえないことを伝える。何をしたいかわからない人に、将来何をしたいのか、自分自身**気づけていない人のきっかけづくり**にもなるんじゃないかと思えます。導いてあげる人、気づかせてあげる人が必要です。

土屋) 僕自身の変化を考えてみると、会社に入ってからだったように思います。刺激が多くてその中で揉まれて変わった。その意味では、このプロジェクトでインターンシップのように**小さな社会経験**ができることもポイントですね。日常的な学生生活以外のことに目を向けたり関わったりすることで、**物の見方が変わったり、より高いレベル**を知ってスキルを上げることができたり。プロジェクトをきっかけに変わる人もいますよね。

小坂) 就職活動をする直前になって、急に将来のことを考えている人も多いけれど、本当は**自分の中でじっくり考え抜いて**見つけるものなんだろうと思う。プロジェクトを通して何をしたいのかを気付かせてあげること、その機会を与えることは大切です。

「とにかく何かに参加しておかないと!」、という動機で参加する学生が多いとすれば、まずはメンバーを集める段階でプロジェクトの意義や魅力を理解してもらうことが必要な。もちろん、入ってきてから、ちゃんと育てていってもらわないといけないけど。

矢倉) まずは何かしたいと思っている人に参加してもらえないといけませんね。

じゃあみいの前から細いエレベータで2階に上がるところに少し敷居の高さもありますよね。とにかくこのフロアに上がってきてもらうことから。

さらに各プロジェクトがオープンな雰囲気づくりをする必要があります。ルームのドアがどこも閉まっているようではプロジェクトの良さが伝わらない。

今入) そういう意味では、オープンスペースの雰囲気も重要かも。もっと「プロジェクト」のスペースだと見えるほうがいいよね。

飯野) 雰囲気も大事な要素だと思うのですが、1年生の立場から言わせてもらえば、テーマだけを聞いてもあまりピンと来なかった印象があります。「このプロジェクトに入るとこんなことができる!」という切り口での紹介があれば、もう少しプロジェクトを「自分ごと」として捉えやすいと思えました。

小羽田) そうだね。僕も**スキルアップ**できることが楽しいと思う。何かができるようになることと、何かにそれがつながっていくことが魅力だよ。

飯野) そうですね。僕は、先輩たちを見ていて、こうなれたらいいなと思いつつ活動しています。他のプロジェクトを見ても、「**できる人**」たちがいます。先輩たちに教えてもらうことも多いですね。

突撃して質問しても、先輩たちは求めていた答えを教えてください。そういった先輩たちに何かを覚えてもらおうと思うと、教えてもらうために自分もある程度勉強してからいくからより理解度も上げることにつなが



ているかも。先生ほど遠くないけど届きそうな人たちに少しでも追いつけるといいなと思っています。自分も教えられたらいいなと思うし、先輩として後輩に何かを聞かれて**答えられなかったらうれしい**ので。

今入) 「できる」ってスキルのことだけじゃないよね。ただ成果を上げるために必要な人というだけでなく、成果や活動自体に対する**「思い」を持つ人**がいて、そういう人から受ける刺激もまた、魅力だと思う。

矢倉) 確かに。いろんなテーマのプロジェクトがあるから、学部、学科もさまざまでおもしろい。いろんな人が集まっている**多様性**が一番の魅力かもしれない。

小羽田) 刺激になる人がいるという状況が魅力ですよ。僕もプロジェクトに入ったとき、先輩がとても魅力的でした。OP (Old Project-member) もたくさんいるし、OPと話す機会があったときもそう思った。そこにいる人と一緒にやるのがおもしろいと思えたら成長もできると思います。僕自身、先輩から教えてもらった分、今は入ってきた後輩たちに、自分がわかることや学んだことを伝えたいという気持ちがあります。

小坂) ここにいれば、おもしろい人たちがいる、何か刺激がある、そして、自分も成長してここにに関わる人たちがお互いに刺激し、高めあえる、そんな場が理想的ということですね。魅力的な先輩が増えたら、プロジェクトに参加する人、成長する人も自然と増えてくる。当たり前のことだけど、こうして10年近い歴史があつてこそ、その中で実感としてそう思うし、具体的なイメージも持てるようになりました。今いるメンバーも、これからのプロジェクトメンバーたちのためにも、そんな場づくりを意識して活動して欲しいと思います。

ステップアップ キャンプ

2012年8月9日(木)～10日(金)



夏の恒例行事である
ステップアップキャンプ。
今回のこのレポートは、
ステップアップキャンプの
企画運営を担当したSCoPの
実行委員会メンバーである
田中くんに
お願いしよう。



「同志社ものづくり推進プロジェクト」の田中 裕貴です。
1回生でまだプロジェクトのこともよくわからない中、プログラムづくりを含めて
キャンプの実行委員を務めました。
感想をまじえてレポートさせていただきます！

同志社ものづくり推進プロジェクト
田中 裕貴 (同志社大学 理工学部1回生)

今年のキャンプは「伝える力を伸ばす」というテーマのもとで構成することになりました。プログラムを考える中ではたくさんの案が出ましたが、それがいかに「伝える」ことに繋がり、参加者の学びになるのか、これを考えるのが会議の中で一番難しかったことです。

1日目

自己紹介「キャッチフレーズ！」

キャンプスタート1発目のプログラムは僕の担当でした。
(緊張して最初はなかなか声が出てこなかったけれど、なんとか頑張れました！)
メンバーがそれぞれ自分のキャッチコピーを考えてグループ内で発表しました。「これは秀逸！」というものをグループで選んで全員でシェアしました。みなさんの個性をはじめに表に出すことで話のネタができるんじゃないか、そんな思惑の中で組まれたプログラムでした。皆さんすごくキャッチコピーを考えるのが上手で…びっくりしました！



アイスブレイク「コトバデツタエテゲーム」

今回は、学年が同じでプロジェクトが混合になるようにグループわけをしました。自己紹介で少し打ち解けた後は、みんなで楽しくゲームに取り組んでもらいました。

お題の絵を見に行く人と、見に行った人から説明を聞いて絵を書く人に分かれて、グループ対抗としました。絵を言葉で説明する、伝えることの難しさを実感し、チームワークも高めてもらおうという企画でしたが、意外とお題の絵を簡単に設定しすぎたか、優劣が付けづらかったのが反省です…(優勝チーム決めをお願いした事務室のおふたり、ごめんなさい!!)

プレゼンの極意を知る ～TEDに学ぶ～

中間報告会を見据えて取り入れたのがこのプログラムです。短時間で効果的に伝えるということはどういうことなのか、映像を見て考えました。
僕はこの時、初めてTEDのプレゼンテーションを見ましたが、とてもわかり易く感動しました！



グループワーク「最高のプレゼンでおすすめWebサービスを売り込め！」

みんなが日頃使っているWebサービスの良さをプレゼンしようという企画です。Webサービスがテーマになるあたり、ローム記念館プロジェクトらしいでしょ？
全てのチームが違うWebサービスを取り上げてくれ、今後の参考になりました！
寸劇仕立てだったり、観客に問いかけたり、各グループとも、短時間ながらいろいろ工夫のあるプレゼンテーションでした。どのグループのプレゼンテーションがよかったかは、メンバーの相互評価。ひとり3枚のシールで投票しました。



2日目

プロジェクトワーク「オリジナル戦隊をつくれっ！」

演劇を取り入れたワークショップにしようと、悩みに悩んでつくれた企画です。
「戦隊モノが大好きなローム城のえぬむら女王様に戦隊モノの演劇をお見せする」ということで、各プロジェクトが、自分たち



のプロジェクトらしさが出ていること、プロジェクトテーマや目標と関連したメッセージを組み込むこと、という条件のもと全員出演の3分間の劇を作り、演じることになりました。今度は言葉だけでなく、動きも加えての「伝える」に挑戦です。プロジェクトのチームワークも問われます。
うまく自分たちのプロジェクトテーマを別のものになぞらえてメッセージ性を持たせているチームもありましたが、プロジェクトの宣伝そのものになっているチームもあり、運営側の期待どおりにいかなかった部分もありました。
また、参加数がまちまちのため、最少では2名での劇となったチームもありました。しかし、どのチームもいろいろな工夫をしていて、とてもおもしろい劇でした。僕たち「ものつぶ」は戦隊モノ大好きな男子ばかり。先輩の演技力も冴え渡り、見事、優勝を勝ち取りました。

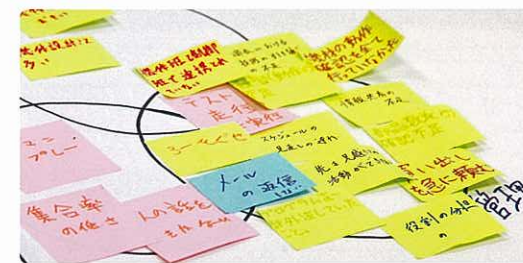
SCoP総会特別版 ～7月 月例報告～

僕たちSCoPでは、毎月総会で所定の書式を使って月例報告をしております。今回は、メンバーにもその様子を知ってもらおうと、キャンプの場で報告会を行いました。

プロジェクトワーク「上半期の振り返り」

これまでの活動の見える化をはかろうということで、プロジェクトごとに時系列の表で活動経過をまとめ、ポスターセッション形式で発表しました。

各プロジェクトの活動内容が見えて、有意義でした。今後の活動にも生きてくる、そんなプログラムになりました。



全体をとおして、僕たち実行委員担当班のメンバー自身、「伝える」ための準備が十分でなく、思い通りに行かなかったところ、説明が不足していたことなど、反省すべき部分も少なからずありましたが、最後に参加したプロジェクトメンバーの皆様から「よかったよ」と声をかけてもらい、それだけで嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今回のキャンプは担当班として、運営する立場から「伝える」ことを考える機会を得ることもでき、また一参加者としても充実した2日間であったと、とても満足しています。

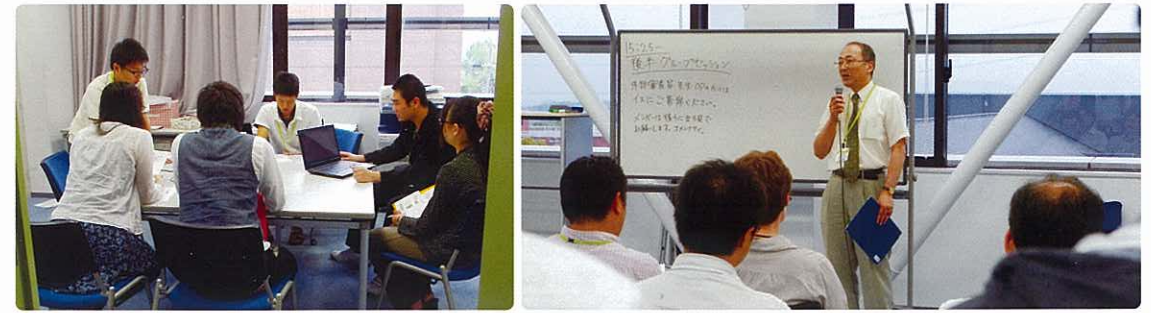
2012年度 中間報告会

2012年9月29日(土)

夏休み期間も終わり、プロジェクト期間も約半分が過ぎたこの時期に開催されるのが中間報告会である。各プロジェクトの進捗状況を報告しあい、外部審査員や委員、OP、他チームのメンバーからたくさんの意見をもらって後半に向けて必要な軌道修正を行う。毎年、夏休みにうまく活動ができないまま遅れを取るプロジェクトがあるが、この報告会でいろいろな人からの意見をもらうことによって打開策が見つかり、巻き返しをはかることができた、という例もある。

今回の報告会では、前半に劇場空間でのプレゼンテーションで、各チーム3分間の持ち時間を使って今後のプロジェクトのビジョンを語り、後半のセッションでこれまでの活動実績を中心に意見交換をすることとなった。

プレゼンテーションのお手本はEテレでも人気の「TED」。各チームでは、短時間で人を魅了するTEDのプレゼンテーションを意識して準備が進められた。ステップアップキャンプが「伝える力を伸ばす」というテーマであったのも、この中間報告会でより効果的に伝えることができるようにしようという思いがメンバーにあったからだ。



後半はそれぞれのプロジェクトルームに活動記録や成果物などを用意し、相互にルームを回ってコメントしあう形態のセッションである。ルームの使い方やファイリングの仕方、PCの使用ルールなど、他チームのプロジェクト運営の工夫にも触れることができた。審査員からコメントをもらうだけでなく、他チームのメンバーが、自分たちの取り組みをどう見ていて、何を感じているか知ることができたのは新鮮であり、新たなアイデアにも結びついたようである。



OPからのメッセージ

楽しいイベントに参加させていただきありがとうございました。

私が活動していた当時と違って、一方的に情報を発信するだけでなく、プロジェクトメンバー同士の意見交換などの交流が活発な印象をうけました。ぜひ、そのいい雰囲気のまま、最終成果報告会までプロジェクトを進めていってほしいと思います。

せっかくの「素敵空間」にいるのですから、少しでもやりたいと思ったら我慢せず、信念を曲げずに必ずやりとげて下さい。また、自ら範囲を狭めることなく、いろいろなことをやってみるのをおすすめします！

いろいろなことにチャレンジしやすい、その環境と立場は本当に貴重です。頑張ってください。

澤本知夏さん(2004~2007年度 コアプロジェクト学生コアスタッフ)



同志社京田辺祭2012 REPORT

今年も、11月3日(土)、4日(日)に京田辺キャンパスにて「同志社京田辺祭2012 (同志社クローバー祭)」が開催された。ローム記念館プロジェクトも、市民や学生、教職員の方々にプロジェクトの活動や成果を知って頂くために、楽しいイベントを企画。プロジェクト全体のテーマとして「Let's Challenge!!」を掲げ、ローム記念館前にはポスターデザインとリンクしたアルパカ風ippoくんのモニュメントも登場！今年は、館外での出展も例年より多く企画されたが、来場者に挑戦、体験してもらおうという趣旨で開催されたイベントは、どれも盛況でメンバーたちにとっても貴重な体験となったようだ。

かくれたアルパカを探せ!
ローム記念館 GF 企画・運営：コアプロジェクト クリエイターバンク




広報誌「ippo」を台紙に、ローム記念館内の各プロジェクトのブースに隠れたアルパカと文字を集めるキーワードラリーを実施。館内の様々な場所にアルパカが散りばめられたおかげで、館内のイベントを巡る方も多く、ローム記念館の集客に一役かっただよう。

遊んで、お宝GETだぜ!
ローム記念館 GF 企画・運営：「遊び場マップ」を作ろう!!




クローバー祭で実施される子供向けイベントの場所を載せた「遊び場マップ」を作成し、子供たちにスタンプラリーでブースを巡ってもらおうという企画。マップを二種類作成することによって、どちらがより見やすく好まれるのかの調査もできたようだ。お母さんや子供たちの視点を取り入れた京田辺市「遊び場マップ」の完成が待ち遠しい。

さわって、体験して Hospee Yo!!!
ローム記念館 GF 企画・運営：病院検索おたすけツール開発プロジェクト




疾患名から、地域の病院を検索するサイト「Hospee (ホスピー)」の制作を手がける本プロジェクト。今回は、一般市民の方にサイトを紹介し、実際に検索いただくことでサイトの使いやすさや見やすさなどについて調査を行った。劇場空間でも活動紹介のプレゼンテーションを行い、広く市民の方へサイトを紹介できたようだ。

舞台計画TV
ローム記念館 劇場空間 企画・運営：コアプロジェクト 舞台計画




劇場空間から楽しいプログラムをお届けする「舞台計画TV」。1日目は電通(株)所属のCMプランナー澤本嘉光氏を招き、「アイデアの作り方」というテーマでトークショーをおこなった。2日目には、ローム(株)の音楽好き社員で構成される「ロームシンフォニックバンド」をお迎えし、風船をモチーフにした会場で身近な楽曲に触れる一時をお届けした。どちらも盛況のうちに終了することができほっとするメンバーたち、また新しい気付きがあったようだ。

present3.0
ローム記念館 劇場空間 企画・運営：workshop3.0




相手のことを想ってプレゼントを選んでラッピングするというワークショップ企画。「花言葉」をキーワードに、プレゼントを渡す相手の喜ぶ顔やシチュエーションをイメージしながら花の種をラッピングし、メッセージカードを添えてプレゼントに。プロジェクトのテーマである、「presentation」も、人に気持ちを伝える、と捉えることで身近で日常的なことに感じてもらえたようだ。

映像であそぼっ!
ローム記念館 1F 企画・運営：同志社プロジェクト



今話題の3Dプロジェクションマッピングの手法を研究し、独自イベントを行おうというプロジェクト。今回は、声の大きさや動きによって変化する映像がスクリーンに投影される体験型の企画を出展。これまで行ってきたイベントも紹介でき、次の活動へ繋がるステップとなったようだ。

Game Center
ローム記念館 1F 企画・運営：GE-SEN



メンバーが制作したゲームを出展。3Dシューティングゲーム、脱出ゲーム、ダンジョンハックRPGの全3種が出展され、多くの来場者がゲームをプレイして楽しんだ。1日の終わりにスコアでの順位を発表するというお楽しみ企画もあり、本物の「ゲーセン」さながらの盛り上がりを見せた。

KYOTO 暦くみず
ローム記念館 1F 企画・運営：京都歴史暦帳




京都の暦と観光ツアーを連動させた観光のためのホームページ制作を手がける本プロジェクト。今回のクイズ企画では、制作中のホームページから問題を出題、実際に検索、閲覧してもらうことでニーズやユーザビリティを調査した。今後も、ホームページの内容と連動した観光ツアーを企画するなどして、今までにない京都の観光情報サイトの完成を目指す。

つくらんかい
「作覧会」 ~つくろう!まなぼう!たのしもう!~
ローム記念館 2F
企画・運営：同志社ものづくり推進プロジェクト



子ども向けの「ものづくり教室」を開催。年齢にあわせて3つのコースが準備され、紙コップロケットや割り箸鉄砲、手づくりモーターなどをメンバーと一緒に制作した。安全にものづくりの楽しさを感じてもらえるよう、参加した子供たちのそれぞれの器用さにあわせてメンバーが対応。予想を上回る盛況ぶり、「ものづくり」への関心の高さが感じられた。

知真館 1号館
オリジナル写真立てを作ろう!
企画・運営：同志社エコプロジェクト~E-Pho~



木の実や枯葉など、自然の素材を用いたオリジナルの写真立て作りを開催。小学生までの子供を対象に行ったイベントであったが、保護者の方も一緒に楽しくてもらうことができ、大人からも「可愛い!」と好評であったようだ。制作した写真立てには、メンバーたちが撮影した花や昆虫などの写真を入れてプレゼント。良い思い出になったようだ。

夢告館
健康になればいいねん
企画・運営：コラボKyoDO



楽しく健康に興味を持ってもらおうと、健康や運動に関するクイズコーナーや、メンバーが教えるお手軽健康教室を開催。健康教室では、体に負担が少なく誰でもすぐに始められる「ロングプレス体操」や「ゆる体操」、「あべこべ体操」などが紹介された。メンバーが制作した健康情報誌「コラボだより」も第1号が発行され、来場者にプロジェクトの活動をPRできたようだ。

夢告館
Research Support講演会
企画・運営：Research Support



医療研究を多くの人に知ってもらいたいと、同志社大学生命医科学部の教授を招き、研究テーマに関する講演会を開催した。ローム記念館のPCでのリアルタイム中継もおこなった。一般市民の方の貴重なコメントや質問から刺激を受け、自分たちのプロジェクト活動の意義を再認識できたようだ。



事務局's 日記

ローム記念館プロジェクトポリシーのひとつに、「新しいものやしくみを創り出し、社会活動へ活かすことを目指すプロジェクト」というものがある。メンバーの活動を日々見守っていると、時にメンバー間やプロジェクト間でぶつかり合いながらも、それぞれに新しいものやしくみを創り出そうと頑張っている様子が伝わってくる。その、目標に向かってがむがむプロセスはとても大切だと思いつつも、少し物足りないように感じる時もある。「理想のプロジェクト」とは、もっと「社会」との関わりを意識して活動し、メンバー同士が幅広い視野で議論出来ていることから生まれるのではないかと、思うからだ。

今回、一般市民の方にいかにわかりやすくプロジェクトや成果物について説明するかを考える中で、その難しさを知り、社会との繋がり大切さを感じたのではないだろうか。また、今までの制作物や活動の目指すべき目標について、新鮮なアイデア、時に耳が痛くなるようなコメントをもらったプロジェクトもあっただろう。

まだまだ「学生のひとりよがり」と見られることもある、そんな活動から、「理想のプロジェクト」への道のりは決して平坦ではないが、そのひとつのステップがクローバー祭であったならば、大変嬉しく思う。
(同志社ローム記念館事務局 和田 朋)

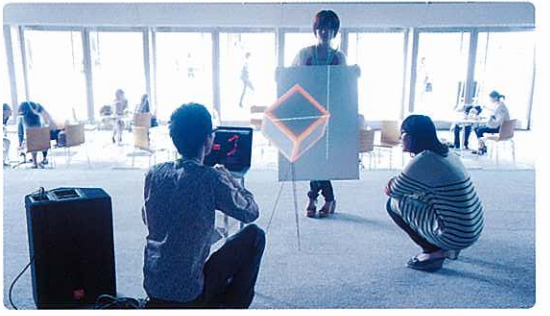
プロジェクト活動レポート

同志社プロジェクション メンバー一人ひとりの 成功を目指す!



北野 一樹
(同志社大学 理工学部3年生)

私達「同志社プロジェクション」では、プロジェクションマッピングを扱った活動を行なっています。プロジェクションマッピングとは、建物や物に対して映像を映すという表現手法です。最近ではよく海外などに企業の宣伝やプロモーション活動などで使われているのですが、まだまだ日本では普及していません。私達はこの技術を用い同志社大学内の建物で同志社の歴史を表現したイベントを行うことを目標としています。



また、私達はプロジェクションマッピングというメディアを多くの人に知ってもらうことにも貢献したいと考えています。そんな思いを込め、7月に同志社ローム記念館劇場空間で『プロジェクションマッピングとはなにか?』と題しイベントを行いました。他にも京都市岡崎地区で行われた「岡崎ときあかり」、同志社大学が主催する「同志社ホームカミングデー」にも作品展示させて頂きました。これら



のイベントを通し私達は当初の目的である技術力向上や経験値を得るだけでなく様々な面で成長してきたと感じています。

プロジェクトリーダーである私はプロジェクトメンバーの精神的、意識的成長も目標に掲げてきました。大学でのメインイベントまでの道のりの中で自ら行動する事の大変さや重要さを感じ、目に見えないゴールまで如何に走り続けるか。この一年でそんな経験をして行きたいと考えています。

私の理想のプロジェクション。それはもちろんプロジェクトを成功させることです。しかしそれと同等に大切に考えているのは、メンバー一人一人の「成功」です。メンバーそれぞれが一年間の活動を通してそれぞれが掲げた私的目標を達成し、かつ成長する事。それを意識したプロジェクト活動を目指しています。

私達は、1月18日(金)、メインイベントである「One Purpose 同志社設立の軌跡」を行いました。様々な問題も抱えての企画スタートでしたが、私はこのメンバーなら成功出来ると信じていました。現在のプロジェクトは、活動期間も残りわずかとなりましたが、私達はこれからも、プロジェクトの成功、またメンバー一人一人の成功を目指すということを意識しながら、活動していきます。



イベント報告
Pick Up!

ビジネスフェア in 京たなべ

10月11日 多々羅キャンパスにて開催

京田辺市や周辺地域の企業約100社が出席するビジネスフェア。同志社ローム記念館プロジェクトも参加企業・団体募集、PR活動の一環として紹介ブースを出展、SCoPコアの矢倉和雄さんがブースでの来場者対応にあたりました。約1,200名もの来場者があり、多くの方々にローム記念館プロジェクトについて知っていただくとともに、お問合せを頂きました。ビジネスフェアでの出会いをきっかけに、山城工芸株式会社との短期プロジェクトも12月に実現。今後も、地域に根ざす企業にローム記念館での取り組みをPRし、更に連携を進めていきます。



ロームフェア 2012

12月6日・7日 ローム記念館にて開催

毎年恒例のローム株式会社主催の「ロームフェア」。今年は「もっと学生の意見を取り入れたい」とのお話を頂き、コアプロジェクト舞台計画やクリエイターバンクを中心にプロジェクトメンバーが企画段階から参加。フェアのチラシデザインもクリエイターバンクのメンバーが担当、学生にとって興味を持ちやすい内容とは?という視点から展示パネルの内容について舞台計画のメンバーがコメントをさせて頂くなど、新しい試みを取り入れた内容で開催されました。ポップコーンやドリンクの配布もあり、先輩社員の仕事紹介コーナーなど、多くの学生がローム記念館を訪れ、ローム株式会社やローム記念館プロジェクトに触れる時間となったようです。



Event Report

イベント報告 2012年7月～ 2012年12月

● イベント

クローバー祭出店のための相談ブース
7月16日(月)～19日(木)
主催：同志社クローバー祭実行委員会

「presentation3.0」～大学生がいま体験していること～
7月19日(木)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「workshop3.0」

「presentation3.0」～生き生きと毎日過ごしているか?～
7月20日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「workshop3.0」

たなまつり。2012 ～節電の夏を乗り切る100の方法～
7月9日(月)～13日(金)
節電の夏を乗り切るべく、夏らしく元気になれるイベントや冷たい飲料の無料配布などを館内で開催。

サークル誘致
9日(月)よさこいサークル「よさ朗」
10日(火) フランダンスサークル「Meahula Nohealani」
ヨーヨー釣り
9日(月)・10日(火)・11日(水)
アイスクリーム配布
9日(月)・10日(火)
(提供：森永製菓株式会社)
エナジードリンク配布
9日(月)～11日(水) (提供：株式会社OC Style)
スイカ割り
11日(水)



主催：同志社ローム記念館プロジェクト「舞台計画」

親子で環境教育
8月20日(月)
主催：わがまち「京たなべ」を美しくする会

2012年度 同志社ローム記念館プロジェクト「中間報告会」
9月29日(土)
(詳細はP7・8を参照)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

まなびば。2012 第1回～環境に優しい廃油キャンドルを作ろう!!～
9月16日(日)
主催：京田辺地域連携推進室

森・有賀ゼミ 京都市動画コンテンツ制作発表会
10月9日(火)
京田辺市の事業を紹介する映像コンテンツを女子大学の学生たちが制作。発表会を実施した。
主催：同志社女子大学情報メディア学科



DRmiuPJ ～various ARTs～
10月10日(水)～12日(金)
芸術の秋にアートを身近に感じてもらうというコンセプトのもと、写真展や講演会などのイベントを開催。

写真展「DRmiuPJ展」
10日(水)～12日(金)
トークショー「Interactive Arts」
10日(木) 森 公一先生(同志社女子大学 学芸学部 教授)

ステージでのライブイベント
11日(木) アカベラライブ
「One Voices」
12日(金) ジャグリングショー
「Hocus-Pocus」
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「舞台計画」



まなびば。2012 第2回 ～廃油キャンドルのラッピングをしよう!!～
10月21日(日)
主催：京田辺地域連携推進室

同志社クローバー祭 震災復興支援企画
10月15日(月)～19日(金)
被災地の復興支援として、クローバー祭実行委員会が企画された「モザイクアート」と「てのひらメッセージ」のカード制作ブースを設置。
主催：同志社クローバー祭実行委員会

まなびば。2012 第3回 ～お店をだす練習をしよう!!～
10月21日(日)
主催：京田辺地域連携推進室

Doshisha Spirit Week 2012 秋
10月29日(月)
主催：同志社大学キリスト教文化センター

同志社京田辺祭2012
11月3日(土)・4日(日)
(ローム記念館プロジェクトのイベントは、P9～11を参照)



けいはんなプラザ・プチコンサート
IN 京田辺 at 同志社クローバー祭2012
主催：けいはんな学研都市活性化促進協議会
けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会

まなびば。2012 第5回 ～ふりかえりの会～
11月18日(日)
主催：京田辺地域連携推進室

新入生への下宿相談会
11月10日(土)・11日(日)・17日(土)・23日(金)
主催：同志社大学京田辺校地学生支援課

「music3.0」
11月22日(木)
プロジェクトの紹介と、パフォーマンス。パフォーマンスでは、オリジナルの曲を披露した。
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「workshop3.0」

ロームフェア2012
12月6日(木)・7日(金)
主催：ローム株式会社、同志社ローム記念館
後援：京田辺市

講演会 なぜ私は原発に反対するのか
～福島第一原発をつくった元技術者が語る～
12月20日(木)
主催：3.11同志社学生ネットワーク

フランダンスサークルによるクリスマスライブ
12月21日(金)
主催：Meahula Nohealani



● 展示

オープンキャンパス 特別展
7月29日(日)
主催：同志社大学 写真同好会